

2020（令和2）年度

施政方針



那覇市

< 目 次 >

1 市政運営の基本姿勢

- (1) はじめに
- (2) 令和の時代を迎えて
- (3) 多様性を認め合う寛容な社会
- (4) 協働によるまちづくりの深化
- (5) 子どもたちの笑顔を求めて
- (6) 文化と観光の融合による振興
- (7) 基盤整備から経済振興へ
- (8) 首里城再建支援
- (9) SDGs -持続可能な開発目標-
- (10) 災害に強いまちづくり

2 予算編成と主要事業の説明

- (1) 予算編成の説明
- (2) 主要事業の説明

3 結びに

高い志と熱意で市政を

はじめに

はいたい ぐすーよー ちゅーうがなびら。

私は那覇市長として、32万市民の幸せを願い、県都・那覇市のさらなる発展に向け、日々、全力で取り組んでおります。

「平和・こども・みらい あなたとともに」をスローガンに掲げ、「やさしく 温かく こまやかに 心をひらく 未来をひらく」の信念の下、笑顔広がる元気なまちNAHAの実現を目指してまいります。

本市議会の皆様におかれましては、より良い市政の実現に向け、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、令和2年度の施政方針と予算案、主要事業をあわせてご説明申し上げます。

ゆたさるぐとぅ うにげーさびら。

（令和の時代を迎えて）

令和という新時代が幕を開けました。令和には、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ。梅の花のように、明日への希望を咲かせる」という思いが込められているとのことです。

文化が生まれ育つ。明日への希望を咲かせる。そのためには、世の中が平和であり続けなければなりません。

「戦争のない時代」とされた平成に続き、令和も平和で安らかな時代になることを切に願っております。

さて、今年には戦後75年の節目を迎えます。時の経過と共に歴史の風化が危惧される中、平和の尊さを、子どもたちにもしっかりと伝え、未来につなげていかなければなりません。

平和への願いが託された、令和という新時代の幕開けに、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。オリンピックは、スポーツを通じて平和な世界の実現に寄与することから、平和の祭典とも言われています。

オリンピックの開会に向け、遠くギリシャから聖火がリレーされ、国内を巡ります。沖縄では首里城を出発し、その後、新都心公園や国際通りを駆け抜け、県内各地に向かいます。

聖火リレーに平和を願う想いを込めて、沖縄から全国へ、そして世界へ、その想いをつなげていきたいと考えております。

（多様性を認め合う寛容な社会）

ラグビーワールドカップ2019では、強豪国を次々と倒す日本代表の活躍に、日本中が感動の渦に包まれました。

とりわけ印象的だったのは、代表選手としてプレーする、多くの外国籍選手の存在です。多国籍であっても、文化・国籍など様々な違いを乗り越え、ワンチームとしてスクラムを組み、一つの目標に向かって進んだことが、すばらしい結果を生み、多くの感動を呼んだのだと思います。

ます。

本市でも、海外からの観光客や定住外国人の増加により、普段の暮らしの中で外国人と接する機会が多くなりました。人口減少・少子高齢化の本市において、社会を支える新しい力となっていくことも期待されています。これからは来訪者としての交流の視点だけでなく、生活者としての共生の視点も備えなければなりません。

私たちの社会は、国籍のみならず、人種や性別、世代、さらには障がいの有無や多様な性、経済的な基盤の違いなど、様々な背景を持つ人々で構成されています。これらの違いや立場を乗り越え、より良い社会を共創していく必要があります。

一人ひとりの多様な個性や立場を尊重し認め合う、寛容な社会を築いてまいります。

（協働によるまちづくりの深化）

本市で協働という言葉が使われ始めて20年が経ちました。第3次総合計画で初めて提唱され、当時耳慣れなかった協働が、今では行政や市民、地域の中で多くの方々にはしっかりと受け止められています。

この20年間、本市における協働は、職員の意識改革による市民との信頼関係構築の土台づくり、頑張る市民を見える化するための協働の基盤づくり、協働を点から線に、線から面に広げる、これらの各ステージを積み重

ねてきました。

そして本市は、いよいよ「協働のNEXTステージ」へと進んでまいります。次の20年を見据え、より良い協働のために、最も身近な自治会はもとより、校区まちづくり協議会の活動の推進など、総合計画に掲げる「みんなでつなごう市民力」をスローガンに実効性のある協働を創り上げてまいります。

改めて感じることは、これからのまちづくりには、市民一人ひとりが主役となり、市民と行政が共に手を携える協働が不可欠であるということです。私の市政運営の土台となるものは、一貫して「協働によるまちづくり」であります。

引き続き、豊かで活力ある地域社会の実現を目指し、邁進してまいります。

（子どもたちの笑顔を求めて）

這えば立て 立てば歩めの親心

この言葉には、子どもの成長を楽しみに待ちかねている親の様子が見てとれます。我が子に向けられるその温かな眼差しを、私たち大人は、未来を生きるすべての子どもたちに注いでいかなければなりません。

子どもの貧困対策の推進については、法改正により、子どもの「将来」だけでなく「現在」に目を向けるなど、目的及び基本理念の充実が図られました。子どもの

現在及び将来が生まれ育った環境によって左右されることのないよう取り組まなければなりません。

また、好調な県経済などを背景に、女性の就業機会が増えたことなどにより、保育需要が高まりました。保育施設の整備により、着実に保育定数の拡大を図っております。

幼児教育・保育の無償化により、経済的な支援の範囲が広がりました。また、本市はすべての公立幼稚園が認定こども園へと移行し、幼保の分け隔てなく、教育・保育を一体的に行っております。さらに、利用が広がってきた、ら・ら・らステーションを通して、小さな声も拾い上げてきました。

子どもの貧困対策を総合的に推進するとともに、待機児童解消に向けて、引き続き、保育施設の整備及び保育士の確保対策に全力を挙げて取り組んでまいります。また、妊娠期から保育・幼児教育にわたる切れ目のない支援の継続と、さらなる質の向上、充実を図ります。

私の重要施策の一つである子ども政策については、従前にも増して全力を傾け、子どもの笑顔があふれるまちづくりを進めてまいります。

（文化と観光の融合による振興）

沖縄県の入域観光客数は念願の1,000万人を超えました。沖縄観光のさらなる飛躍に向けては、専門家から

は、沖縄の独自色をより強く打ち出していくことなどが、提起されております。

観光振興への示唆に富む『新・観光立国論』を著したデービッド・アトキンソン氏は、観光立国には「気候」「自然」「文化」「食事」の四要素が必要であると述べ、日本は全ての要素を持ち合わせていると評価しています。

私は、亜熱帯の気候や自然、琉球王朝の色彩を今に伝える独特の文化や料理に恵まれる沖縄こそ、優位性があると考えています。

本市が関わる『琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」』が、沖縄県から初めて日本遺産に認定されました。

また、現在、那覇文化芸術劇場「なはーと」の建設工事や、沖縄の食の魅力発信拠点施設として第一牧志公設市場の建替工事が進んでいます。

飛躍の可能性を秘めたこれらの資源を活用し、独自の文化芸術と観光産業を融合させ、付加価値を付けていく必要があります。相乗効果を生み出し、双方の育成・振興・発展を図り、本市の魅力を高めてまいります。

（基盤整備から経済振興へ）

沖縄県と国内外を結ぶ人流・物流の拠点として、極めて重要な役割を果たしている那覇空港では、まもなく第二滑走路の供用が開始されます。

県内最大級的那覇港総合物流センターは、空港に近い利点を生かし、海と空の連携にも取り組み、将来はアジア向けの物流ハブを目指しています。

延長開業したゆいレールは、沖縄自動車道との結節により乗り換えが促進され、那覇都市圏の慢性的な交通混雑の緩和や、新たな人の流れが生まれることが見込まれています。

このように、経済振興の礎を成す基盤整備は着々と進んでいます。

本市においては、南北を走るゆいレールに対し、東西の交通軸を成すLRTの整備に期待が高まっています。

人流・物流の拠点や基盤をつくり、相互に連携し、効率化させることで、本市経済への波及効果が生まれるものと考えております。

快適な交通環境を整備し、まちの魅力を高め、また、成長産業分野への対応力を強化することで、本市の経済を牽引する企業や人材の集積を図り、自立的な経済基盤を拡大させてまいります。

（首里城再建支援）

首里城火災の発生当日、まだ白い煙が立ち込める中、跡形も無く崩れ落ちた正殿を前に、悲しみと無念さで、しばらく呆然と立ち尽くしました。この喪失感は、今なお埋まることはありません。

首里城が私たちにとっていかに大きな存在であったかを再認識するとともに、一日も早く、あの朱色に彩られた首里城の姿を再び目にする喜びを、多くの方々と分かち合いたいとの思いを強くいたしました。

首里地域は、首里城のみならず、いにしへの王府を彩る歴史文化遺産が数多く存在しております。歴史と文化が薫る首里の将来を展望する上で、これらが一体的に整備されなければならないものと考えております。

「七^{くる}転びくるでい ひやみかち^う起きり
わしたく^{うちなー}ぬ沖繩 ^{しけ}世界に知らさ」

私たち^{うちなーんちゅ}は、これまで幾多の困難な状況にあっても、ひやみかち節にあるように、何度も起き上がってきました。

首里城の再建は長い道のりとなりますが、皆様と共に「ひやみかち起きり」と、心を一つにして歩みを進めてまいります。

（SDGs -持続可能な開発目標-）

2015年9月、国連サミットで2030アジェンダが採択されました。「誰一人取り残さない」というSDGsの基本理念の下、人間、地球、繁栄のための行動計画が示されております。

国も強く推進しており、企業や投資家、経済全体で取り組む社会の枠組みとなりつつあり、今日、その裾野は

確実に広がっております。

本市が第5次総合計画に掲げた「めざすまちの姿」は、SDGsの理念と合致するものであり、総合計画を実行することが、SDGsの着実な推進に繋がるものと考えております。

「誰一人取り残さない」という理念を改めて心に刻み、SDGsにしっかりと向き合っておりまいます。全庁的な推進体制を構築するとともに、未来への思いを共有するため、シンポジウムを開催するほか、就職氷河期世代の職員採用に門戸を開くなど、持続可能な社会の実現に向け、最初の一歩を踏み出してまいります。

（災害に強いまちづくり）

気候変動に関する専門家は、急速に進む地球温暖化に強い危機感を抱き、このままでは豪雨や洪水、干ばつなどの異常気象のリスクが高まると警鐘を鳴らしています。

現在、世界各地で、森林火災や噴火、地震など、自然災害が多発しています。我が国においても昨年の台風19号や九州北部豪雨など、想定を遥かに超える甚大な被害があり、今もなお避難生活を余儀なくされる方々がおられます。

災害には日頃からの備えが大切です。本市の総合防災訓練では、毎年新たな想定を加えながら、対象範囲を拡大し実施しています。地域で活動する防災士に加え、新

たに、専門的知見を有し、防災・危機管理の中心的な役割を担う、地域防災マネージャーを養成、確保し、災害対応力を高めてまいります。

防災に関するハード面の整備を進めるとともに、訓練や市民参加型の防災体験を通じ、意識啓発や災害の知識、発災時の判断・行動の教育など、防災意識の向上のための取組を進めてまいります。

予算編成と主要事業の説明

（予算編成の説明）

それでは、令和2年度予算案の概要を申し上げます。

一般会計予算は1,575億9千7百万円で、対前年度比107億8千3百万円、7.3%の増となっています。

歳入予算では、好調な県内景気と様々な徴収努力による市税の増額、さらに、地方消費税交付金や国庫支出金、県支出金等で増額を見込む一方、地方特例交付金や分担金及び負担金で減額を見込んでいます。

歳出予算では、子ども政策分野や経済分野の重点事業、教育・福祉分野の充実事業等のほか、新文化芸術発信拠点施設建設や学校校舎建設、市営住宅整備など各分野へ幅広く予算を計上しています。

結果として、約29億2千2百万円の収支不足が生じておりますが、財政調整基金から、同額を取り崩して対応いたします。

企業会計を除く特別会計予算は、総額約715億6百

万円で、対前年度比約1億4千8百万円、0.2%の減となっています。特別会計予算の減額は、農連市場地区再開発の終息による市街地再開発事業特別会計の減額によるものとなっています。

国保特会の財政赤字については、引き続き一般会計からの政策的な繰り入れを行います。

（主要事業の説明）

次に令和2年度の主な事業を、第5次那覇市総合計画で掲げた5つのめざすまちの姿に沿ってご説明いたします。

まず、「多様なつながりで共に助け合い、認め合う安全安心に暮らせるまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

（小さな「わ」が大きな「Wa」に広がる協働によるまちづくり）

市内全域での校区まちづくり協議会の設立を目指し、地域に寄り添いながら、活動中の12校区に加え、新たに3校区程度の協議会設立支援に取り組みます。

また、地域の課題解決につなげることを目的に、地域の人材とニーズをマッチングさせる那覇市人材データベース事業を推進します。

市民活動の拠点機能を備えた小祿支所については、令和4年度の完成に向け、仮支所への移転や現支所の解体

工事等に着手します。

老朽化した真和志支所については、真和志地域の活性化の核となる施設として、中央公民館・図書館、福祉関連施設等との複合化に向け、基本計画を策定します。

（地域の力が重なる安全安心のまちづくり）

消費者被害の未然・拡大防止に向け、啓発活動及び消費者教育のほか、相談体制の充実・強化を図ります。

また、外国人が安全安心に暮らせるよう、住民登録や医療、子育て等生活に係る一元的な相談窓口を新たに設置します。さらに、専用のアプリの活用により、広報紙等の多言語への翻訳を行うなど、多文化共生社会の実現に向け取り組みます。

消防力強化のため、「（仮称）小祿南出張所」及び「（仮称）識名出張所」の建設に向け用地取得等を進めます。

また、災害対応力を高めるため、災害や気象情報等を配信し、さらに、避難所運営支援、被害情報を一元管理する防災情報システムの整備を進めます。

引き続き、防災士を育成するとともに、新たに、防災・危機管理の専門的知見を有する地域防災マネージャーを養成します。

併せて、大規模災害に備え、水や食料等の災害備蓄の確保や外国人観光客に対応した多言語防災リーフレットを整備するなど、安全安心で災害に強い観光都市を目指します。

（交流の輪を広げ平和を希求するまちづくり）

戦後75年の節目を迎えるにあたり、沖縄戦の実相や平和の尊さを次の世代に継承し、平和を希求する想いを発信します。

旧那覇飛行場用地問題の解決に向け、「ともかぜ振興会館」を供用開始するとともに、引き続き「（仮称）大嶺コミュニティセンター」の整備に取り組みます。

ホノルル市との姉妹都市提携60周年という節目の年を迎えることから、両市を相互に訪問し、今後一層の相互理解と友好的親善交流に向けて取り組みます。

（人権が尊重され、誰もが心豊かに安心して暮らせるまちづくり）

第4次那覇市男女共同参画計画を推進し、人権が尊重される社会、多様な性を尊重する社会、ワーク・ライフ・バランスの推進、あらゆる分野への女性の活躍推進、そして暴力のない社会づくりなどに引き続き取り組みます。

いじめやデートDV防止、将来のDV防止に繋げるため、若年層への人権に関する意識啓発にも取り組みます。

次に、「互いの幸せを地域と福祉で支え合い誰もが輝くまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

（地域で暮らし地域で支えるまちづくり）

災害時に避難行動要支援者の避難を迅速に行えるよう、避難支援についての同意確認や個別避難計画書を作成するなど、避難支援体制の構築に着実に取り組みます。

医療、介護、介護予防、住まい、生活支援などのサービスを切れ目なく提供する地域包括ケアシステムの充実に努め、引き続き、24時間体制の定期巡回・随時対応型訪問看護介護等の整備を推進します。

介護保険や老人福祉に関する次期事業計画となる「第8次なは高齢者プラン」を策定します。

また、屋外での移動が困難な障がいのある重度心身障がい児の通学支援を新たに実施し、引き続き、外出のための移動支援の充実を図ります。

貧困問題に起因する、深刻な子ども達の様々な課題に対して、支援員を配置するとともに、学校や地域、企業などとの連携を強化し、子ども達への支援の輪が広がるよう取り組みます。

（すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり）

健康・長寿県おきなわを取り戻すため、健康ウォーキング大会などを通して、市民が主体的に健康づくりに取り組めるよう継続的に支援します。

働き盛り世代に健康課題が多いとされた「健康なは21（第2次）」の中間評価を受け、関係機関による職場での健康づくりや「食の健康づくり応援団」の充実・強化を図ります。

また、子どものむし歯予防のため、2歳児歯科健康診査を継続するとともに、安全面に十分配慮し、保護者の同意を得ながら、全小中学校でのフッ化物洗口の取組を進めます。

（身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり）

AIを活用し特定健診の受診を勧奨することで、市民の生活習慣病予防や医療費の適正化を目指します。

さらに、生活習慣病重症化予防のため、治療中の方に対しても、保健師などの医療専門職による、生活改善や栄養指導などの健康管理に関する適切な指導を行います。

老朽化した那覇市立病院の建替えについては、災害に強く、安全安心な医療環境を提供できるよう、病院当局と協力し、その整備に全力を傾けます。

（衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり）

市民や観光客に安定した食の提供を行うため、引き続き、食品等事業者に対し、^{ハサップ}HACCPの普及推進を強化します。

先天性風しん症候群の発生予防を目的に、妊娠を希望する女性等に対し、風しん抗体検査を無料で行い、ワクチン接種を推奨します。

また、結核の早期発見と感染拡大防止のため、定期健康診断に係る費用等についても支援します。

次に、「次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

（子育てが楽しくなるまちづくり）

待機児童の解消に向け、保育所等の施設整備に資する事業を展開するとともに、潜在保育士の復職支援や保育士の離職抑制、正規雇用促進等の事業を実施し、保育士確保に努めます。

また、年収360万円未満相当世帯の3歳から5歳児のほか、所得に関わらず、第3子以降の子どもの保育施設等での主食費の減免措置を新たに講じます。

子どもと家庭に関する身近な相談対応として、訪問等を行うとともに、関係機関と連携した支援を通じ、児童虐待の未然防止及び早期発見、早期対応に努めます。

加えて、学校以外の場所における学びの機会の格差を解消するため、新たにスタディークーポンを活用した事業を実施します。

（自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり）

全中学校区に子ども寄添支援員を配置し、不登校を始めとした様々な課題を抱えている児童生徒の置かれた環境を確認し、学校や行政など、関係機関と連携して必要な支援を行います。

また、教員の「働き方改革」を進めるため、部活動指

導員を各中学校に配置するなど、学校教育活動の一層の充実や部活動の質的な向上にも努めます。

児童生徒の県外大会への派遣支援の拡充を図るため、準要保護世帯に対する航空運賃を全額助成するとともに、新たに、助成対象を中学校クラブチームや私立小中学校の児童生徒に拡大します。

学校施設については、若狭小学校校舎や垣花小学校体育館の改築工事に着手するなど、引き続き、学校施設の改築等を推進し、安全安心な教育環境の整備に努めます。

（生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり）

新たに開館する真和志南地区待望の那覇市人材育成支援センター「まーいまーいNaha」において、観光産業分野等で活躍できる人材の育成とともに、住民等の学習・交流活動などに対する支援も行います。

学校を核とした地域づくりを目指し、子どもたちの安全安心な居場所づくりとして、放課後子ども教室の充実を図ります。

また、学校のオープン化を進めるにあたり、地域・学校連携施設を地域の人々や団体等をつなぐ場として提供するため、ICTを活用し、施設の利便性向上と管理負担の軽減に取り組みます。

（郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化

を創造するまちづくり)

本市固有の文化を継承するとともに、県内で初めて認定された日本遺産を構成する有形・無形の文化財を国内外へ戦略的に発信します。

また、国宝に指定された琉球国王尚家関係資料の修理を継続的に行い、貴重な文化財を次世代に継承していくとともに、急増する来訪者のニーズに対応するため、世界遺産である識名園等の環境整備に努めます。

併せて、首里城火災後の首里のまちづくりに向けては、貴重な周辺文化遺産等を含めた計画となるよう、国や県との連携を深めていきます。

那覇文化芸術劇場「なはーと」の建設を推進し、施設の早期完成に向けて取り組みます。

次に、「ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

（ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり）

読売巨人軍春季那覇キャンプが10回目の歴史を重ねます。観光振興にも資する巨人軍キャンプに向け、環境整備と支援を継続して進めます。

本市を訪れる国内外の観光客を対象とした夜型観光コンテンツ等の周知について取り組みます。

また、東京オリンピックの成功を願い、首里城公園を

出発する聖火リレーが、盛況かつ安全に実施されるよう取り組みます。

（様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり）

世界水準の観光リゾート地の形成を目指し、第2クルーズ船バースなどの港湾の整備やクルーズ船寄航誘致を支援します。

市内の起業家や中小企業と投資家等とのマッチングの場を設け、資金調達及びビジネスマッチングの面から企業支援を促進します。

また、那覇市独自の観光・地域資源を活かした新たな商品やサービスの企画・開発を行う企業を支援し、那覇の魅力発信に努めます。

さらに、市内中小企業・小規模事業者の経営基盤の強化のため、各種セミナー等の開催や企業の実情にあった専門家の派遣などの支援も行います。

伝統工芸の担い手育成等に資する、染物や織物の産地拠点施設の整備を支援するとともに、その魅力発信を通して、観光及び地域振興につなげます。

活気ある水産拠点の形成をめざし、漁業所得の向上や経営基盤の強化を図る取組を支援します。

（産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり）

なは産業支援センターなどを活用し、気軽に創業や就業に関する相談ができる環境づくりを継続します。

次世代を担う小学生を対象にしたプログラミングの講座やコンテストを実施し、情報技術に興味を抱き、論理的思考を身につける人材の育成に努めます。

また、若年層の失業率、定着率の改善を目指し、早期からの職業意識の醸成やキャリアデザインの形成を図るため、小中学生へのキャリア教育支援を実施します。

（中心市街地を活かしたまちづくり）

商店街の活性化を図るため、頑張るマチグッー等支援基金を活用して、商店街や通り会等が行う誘客事業や利用促進を図るPR事業、商店街の環境整備事業など創意工夫による積極的な取組や提案事業等に対し支援します。

沖縄の食の魅力発信拠点として、「食」を中心とした回遊性の向上と更なる観光客の誘客促進を図るため、第一牧志公設市場の再整備に引き続き取り組みます。

次に、「自然環境と都市機能が調和した住みつづけたいまち NAHA」に係る事業について、ご説明いたします。

（省エネを実践し、資源が循環するまちづくり）

地震や津波など大規模な災害時に発生する廃棄物の処理を迅速かつ適切に進めるため、災害廃棄物処理計画を策定します。

市内の外食事業者を対象に「食べきり協力店登録制度」を導入し、外食における食べ残しなど食品ロス削減の推

進を通して廃棄物の発生・排出抑制に取り組みます。

（自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり）

自然環境保全の意識を高めるため、市民ニーズに応じた自然観察会や清掃活動を行うなど、引き続き、環境啓発に努めます。

首里、壺屋地区においては、琉球の歴史が感じられる赤瓦屋根や石積みなどへ、継続して助成し、歴史・文化に彩られた那覇の景観向上に取り組みます。

民間活力を活かした Park-PFI 制度の活用も視野に入れた、効果的な公園・緑地の整備を行うとともに、利用者の安全安心を確保するため、遊具等の適切な管理及び更新を行います。

併せて、市街地の緑化を促進することで、みどりに親しみ、魅力溢れるまちを目指します。

（暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり）

農連市場地区の再開発においては、保育所や市営住宅が供用を開始することで、のうれんプラザを核とする更なる賑わい空間の創出を図ります。

また、まちづくりを支える公共交通軸の観点から LRT などを中心市街地、真和志、新都心の各地域を結ぶ公共交通軸として位置づけるとともに、バス等の交通事業者との合意形成に向けた取組を進めます。

更なる乗降客数の増加が見込まれる、ゆいレールについては、輸送力増強の観点から、モノレールの3両編成に向け、整備に取り組みます。

石嶺、宇栄原、大名の各市営住宅の建替工事を継続するとともに、真地市営住宅の建替えについては、高齢者福祉施設を併設することとし、実施設計に着手します。

（災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり）

一銀線などに加え、新たに古波蔵上線等の都市計画道路について、交通渋滞の緩和や快適な歩行空間の確保など、引き続き、体系的な道路網の整備を進めます。

老朽化している甲辰橋の架け替えを推進し、生活道路の役割を担う橋梁についても、調査点検等を行います。

また、水道水の安定供給のため、引き続き豊見城配水池建設を進めるとともに、市内一円において水道施設の耐震化を推進します。

併せて、公共下水道の整備を進めるとともに、施設全体を対象としたストックマネジメント計画に基づき、計画的かつ効率的な修繕・改築にも取り組みます。

（那覇の魅力と特性を活かした土地利用を進めるまちづくり）

まちづくりの基本的な方針や都市機能・公共交通に関する包括的な計画として、新たに示される都市計画マスタープランや立地適正化計画に基づき、誰もが安心して、

移動しやすいまちづくりを推進するため、移動を阻害し那覇の魅力を低減させる交通渋滞緩和に向けて、主要渋滞箇所における対策検討調査に取り組みます。

最後に、「市民との信頼を深め、効率的で効果的な行財政運営を行う」に係る事業について、ご説明いたします。

（市民との信頼を深める職員の育成と組織づくり）

市民サービスの向上を図るため、住民異動における申請書への記入を省略するなど、手続きの簡素化を図られるよう支援システムを導入します。

また、市税や保険料の納入について、いつでもどこでも納付ができるスマホ収納を新たに導入します。

RPAによる業務効率化を進めるとともに、AIとチャット形式により必要な情報を容易に入手できるサービスの導入に取り組みます。

庁内組織においては、技術部門の統括機能をさらに高めるため、まちなみ共創部の技術管理課と地籍調査課を「技術総務課」に統合します。

（効率的で効果的な行財政運営を行う）

「誰一人取り残さない」というSDGsの理念にしっかりと向き合い、有識者による基調講演やパネルディスカッション等を行うなど、SDGsに対する機運の醸成に向け、シンポジウムを開催します。

また、税収の維持確保に努めるとともに、ファシリテイマネジメントの推進、施設整備における民間活用の検討を行うなど、持続可能な行財政運営を進めます。

令和3年の市制施行100周年に向け、各種記念事業の企画・立案を進めるとともに、演劇公演などのプレイベントを実施します。

（結びに）

市政運営にかける私の思い、令和2年度の予算案や主要事業の概要などについて説明いたしました。

最後に、もう一言、私の思いを添えたいと思います。

（高い志と熱意で市政を）

20年ぶりに紙幣を刷新するとの発表がありました。五千円札の肖像画には、津田塾大学の創始者で、日本の女子教育の先駆者と言われる、津田梅子さんが用いられます。教育現場に身を置いた私にとっても、尊敬する教育者が選ばれたことは、大変誇らしく思います。

彼女は、「高い志と熱意を持ち、少数だけでなく、より多くの人々との共感を持てれば、どんな弱い者でも事を成し遂げることができるでしょう」という言葉を残しています。

市長に就任して5年間、「市民との対話」を旗印に掲げて進んでまいりました。これからも常に高い志を持ち、

－2020（令和2）年度施政方針－

市民とひざを交え、多くの人々に共感の輪を広げ、笑顔
広がる元気なまち NAHA の実現を目指してまいります。

市民の皆様、並びに議員各位のご理解、ご協力をよろ
しくお願い申し上げ、私の施政方針の結びの言葉といた
します。

いっぺー にふえーでーびる。

令和2年2月12日



令和3年

つなぐ むすぶ ひらく 那覇市制100周年



那覇市市制100周年

発行 2020年2月
那覇市企画財務部企画調整課